

人工木について

基本特性及び使用上の注意

色について

- 人工木は100%リサイクル素材(廃木材/廃プラスチック)を使用しているため、多少の色のはらつきがあります。
- 木材の質感を実現するために、表面を研磨加工しております。人工木の木目(研磨跡)には順目、逆目があり、目視する角度によって、色合いが違ってくる場合があります。
- 人工木材は原料に木粉(廃材)を使用しております。そのため、木粉が紫外線や雨により少しずつ白っぽく退色していきますが、これは表面の変化のため強度には支障を来す事はありません。また、研磨する事により元の色合いに戻ります。色の変化は使用環境によって異なります。
- 木粉配合の材料ですので、木材に含まれる褐色の成分が材料表面に浮き出ることがあります。
- ペーಜュは色の性質上、汚れなどが目立ちます。

汚れについて

- 汚れが付着した時は頑固な汚れになる前に清掃等を行ってください。汚れは使用環境に大きく影響されます。
- 床面、人工木に灯油やガソリン、有機溶剤などがついた場合はすぐに拭き取ってください。変色する恐れがあります。
- お手入れについて参照

熱伸縮について

- 人工木は木粉と再生プラスチックを使用しているため、使用される場所、環境によっては温度や湿度等の自然条件により、伸縮や変形が発生、または使用方法、施工方法によって素材の伸縮や反りが生じることがあります。また、施工上及び使用上、問題の無い範囲で反りや曲がりのある商品が納入される場合があります。あらかじめご了承ください。

表面温度について

- 日中、日差しが強いときなどはデッキまたは人口木自体の表面温度が上昇し、やけどをする恐れがあります。デッキ上ではスリッパ、履物をご利用ください。

燃焼について

- 人工木は木材に比べ若干燃えにくいですが、人工木の上、若しくは近くでの火気の使用(本来の目的以外での使用)には十分にご注意ください。
- デッキの上で暖房器具、バーベキューコンロ等、高温になるものを使用しないでください。商品の变形、破損、事故等の問題につながります。

保管について

- 部材を保管する際は平らな場所に保管してください。立てかけて保管しないでください。変形する恐れがあります。
- 重量物を置く際は、重量を集中させないように、大きな敷板等の上に置き、重量を分散させるようにしてください。
- 重量物を落とさないでください。割れ、穴、歪みの発生する恐れがあります。重量物を長時間載せたままにしますと、人工木が曲がる恐れがあります。デッキ面を先端の尖ったもの(鋭利なもの)で突かないでください。破損や変形の恐れがあります。
- 人工木、デッキ、ステップ、フェンスに強い衝撃を与えるような、寄りかかったり、ぶら下がったり、登ったり、飛び乗りや飛び降りをしてしないでください。ケガをする場合や、商品が破損する恐れがあります。
- 一時保管する場合は、直接雨が当たらないようにシート等でカバーしてください。

お手入れについて

- 表面に付着したシミや汚れは、すぐに取り除いてください。
- 水またはお湯で濡らした布で拭き取ってください。
- 水洗いには布やスポンジなど柔らかい素材のものを使ってください。
- 過度に強くこすらないでください。
- 施工時または施工後についたデッキまたは人工木の表面にできたキズはサンドペーパー(#30、#60)で補修してください。
- 強くこすらずにキズの程度を確認しながらこすってください。

その他

- 雨などで濡れたデッキ、ステップ、人工木はすべりやすくなっています。転倒などしないようにご注意ください。
- 人工木は樹脂を含んでいるため、歩行などの摩擦により、静電気を帯電する場合があります。
- 雨具、洗濯物、布団などをフェンスに置かないでください。運道具やお子様の遊具など、目的以外の使用は絶対にしないでください。
- 製品が破損した場合は、すぐに修理などを完全に行ってください。破損したままで使用を続けると事故の原因になります。
- 施工後は定期的にボルト、ビス、金具、人工木等の安全点検を忘れずに行ってください。

施工上の注意

設計について

- 人工木の膨張、伸縮に対する事項(目的、固定穴)を考慮すること。人工木は季節により収縮があります。長さ1mに対して約1mmの伸び縮みがありますので、長さに対するつなぎ合わせの場合はそれを考慮してください。例:1800+1800の場合約3.6mmの隙間、2700+2700の場合約5.4mmの隙間が必要になります。(使用方法、設置場所の状態により異なります)
- 熱と吸水により変形、膨張、伸縮することがあります。
- 建物などの構造物へ突き付ける場合には、10mm以上の間隔をあけてください。繋げて取り付けると、熱膨張などにより、部材が変形する事があります。

ネジ留め

- ネジ留めする場合は、あらかじめ下穴をあけて施工してください。直接ビスを打ち込むと破損の原因になります。
- ネジはステンレス製をお使いください。
- 電動ドライバーを使用する場合は、トルクを弱い力に設定してください。
- 締めすぎて空回りした場合は、径を1サイズ大きくして締めなおしてください。
- 叩く時は、当て木をするか、ゴムハンマー等使用してください。

柱埋め込み方法

- 柱等に使用し、コンクリートに埋め込む場合、素材の膨張によりコンクリートを破損する恐れがありますので、埋め込み部分に緩衝シート(樹脂発砲シート)をまく等して、直接コンクリートに触れないようにしてください。

空気穴、水抜穴について

- 中空の材料は、端部をキャップなどで密封する、または空気が密封される基礎部分の環境といった状況(束柱がない場合等)では熱により空気が膨張し、結露水や侵入水が溜まりますので、空気穴(水抜穴)5~8mmを設けてください。必ず部材断面各部屋の水が抜ける方向から穴をあけてください。水抜穴は必ず下面に向けてください。誤って上に向けてと水が入り込み膨張や変形の原因となりますのでご注意ください。

加工について

- 切断、穴あけ、面取り、切削等は木材の場合と同じ工具で加工できます。
- 切り屑は樹脂を含むため、土に戻りませんので掃き集めて自治体の条例にそって処理してください。
- 断面を長手方向に切断すると変形(外反り)する事があります。できるだけ避けてください。

固定方法

- 建物など他の構造物に密着させないでください。いかなる場合でも壁や床に直接板材を取り付けることは避けてください。
- 接地面が絶えず濡れた状況になると、線膨張率の違いなどで部材が変形する恐れがあります。

その他

- ハンマー等、硬いものを落としたりしないでください。割れ、欠けの原因になります。
- 木口を硬い地面等に置く場合は衝撃に注意してください。破損の原因になります。